

平成 28 年 1 月 12 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 S H I F T
 代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 丹 下 大
 (コード番号:3697 東証マザーズ)
 問 合 せ 先 取 締 役 C F O 福 元 啓 介
 (TEL. 03-6809-1165)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 1 月 12 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向、昨年 12 月 22 日に開示した子会社取得及び海外進出等を踏まえ、昨年 10 月 8 日に開示した平成 28 年 8 月期(平成 27 年 9 月 1 日～平成 28 年 8 月 31 日)の第 2 四半期累計期間業績予想及び通期業績予想を下記のとおり修正することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 8 月期第 2 四半期累計期間業績予想数値の修正

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,161	194	184	113	7 86
今回修正予想(B)	2,394	162	154	93	6 49
増減額(B-A)	233	△31	△29	△19	—
増減率(%)	10.8	△16.1	△16.0	△17.4	—
(参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 8 月期第 2 四半期実績)	1,418	167	163	104	7 73

2. 平成 28 年 8 月期通期業績予想数値の修正

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,687	458	495	288	20 00
今回修正予想(B)	5,185	362	398	178	12 36
増減額(B-A)	497	△96	△97	△110	—
増減率(%)	10.6	△21.0	△19.6	△38.2	—
(参考)前期実績 (平成 27 年 8 月期実績)	3,288	319	315	195	13 99

3. 第 2 四半期累計期間業績予想修正の理由

当第 1 四半期の業績につきましては、好調な受注環境を受けて、対前年同四半期比 73.1%増収で着地し、既存顧客との取引拡大、新規領域・顧客獲得の両面において予想を上回って堅調に推移し、着実に収益基盤を拡大させてまいりました。こうした好況感の中、並行して当社では SHIFT[®]100 を策定し、売上高 100 億円に向けた投資活動も積極的に推進しております。

当第 2 四半期につきましても、業績は予想を上回って好調に推移しており、売上高は大幅に当初見込みを上回る見通しとなりました。一方で M&A 関連費用、海外進出のための準備費用、ESOP 等の会社としての基盤強化に対する費用が予想を上回って発生したことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は当初見込みを下回る見通しとなりました。

4. 通期業績予想修正の理由

今後の事業展開については、当第 1 四半期の実績および足元の業績動向から、好調に推移するものと予想しており、通期では新たに取得した子会社の収益貢献も期待できる状況です。

新たに取得した子会社については、既存業務による収益貢献に加え、外注パートナーに委託している業務の内製化による売上総利益率の上昇による利益貢献も見込んでおりますが、統合関連費用やのれんの償却等も発生することから通期業績への影響は保守的に算定をしております。

また、現在の好況感を最大限活かし、成長スピードを加速させるためには、海外進出への一層の投資が必要であると判断いたしました。具体的にはベトナムを出発点としてアジア各国でテストセンターネットワークを形成するため、当期ベトナムにおいて 100 名程度のテストエンジニアの採用を行い、アジア圏内での業務展開を進める予定であります。当該子会社の立ち上げにおいては、拠点設置、人材採用、教育、オペレーション構築、渡航滞在費用など相当程度の費用が先行することが見込まれるため、通期業績予想に新たに 1 億円程度の投資予算を織り込みました。

こうした状況を踏まえ、売上高予想値につきましては、当初見込みを大幅に上回る見通しとなりましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は当初見込みを下回る見通しとなりました。

※上記の予想は、本資料の日付時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実績の業績は今後様々な要因により当該予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上